

## 渡航報告書

国際保健学領域 准教授 上杉裕子

### ●渡航目的

大学の世界展開力強化事業「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」による学生交流プログラム準備のための打ち合わせ

### ●渡航日程

2013年3月13日～3月17日

《Nursing Faculty of Chiang Mai University において、交流プログラム打ち合わせ》

Associate Dean である Dr. Areewan Klunklin、本交流プログラムの窓口を担当してくれている Dr. Phanida、昨年 ICHS コースにより神戸大学で講演をした Dr. Lasuka との同席のもと、Nursing Faculty of Chiang Mai University の紹介を受け、上杉からは本プログラムによって行おうとしている統合看護実習（国際）によるチェンマイ渡航の内容と要望、派遣受け入れ学生についての確認を行った（別資料）。その後 Dr. Achara より Nursing Faculty of Chiang Mai University のカリキュラムの説明を受けた。

Nursing Faculty of Chiang Mai University では、1年目は共通科目、2-4年は専門科目で構成されていること、学生実習では指導者の監督下のもと、かなり実践的な実習を行っていることなどの紹介があった。本学の学生は統合看護実習（国際）として渡航する予定であるが、日本人学生がどのような実習を希望するかによって、今後調整していただくことを確認した。

午後は実習病院である Maharaj Nakron Chaing Mai Hospital を訪れ、師長である Malinee より説明を受けた。一般病棟、プライベート病棟と2種類あり、プライベート病棟はすべて個室であった。病棟はところどころ花で飾られており、これらは寄付によるものだということである、仏教国らしい飾り物に癒される空間となっていた。

《学生寮の確認》

本学学生が滞在する予定の学生寮の環境も確認した。学生寮は質素ではあったが、部屋に冷蔵庫とエアコンが設置され。部屋と建物の鍵の2重の施錠によってセキュリティに配慮されていた。トイレとシャワーは共同であった。台所も共同で使用できるため、自炊も可能である。近隣に食料品を売っている店もある。

《Chiang Mai University の本学と Salaphi hospital の見学》

Chiang Mai University 本学は、広大な敷地に芝生の広場が広がる美しいキャンパスであった。手頃な値段で食事できる学食もあった。日本人学生が実習予定としているコミュニティホスピタルである Salaphi hospital も見学した。チェンマイ市街から車で30分程度の郊外にあるが、ここで実習するときは学内からバスが出るためそのバスに日本人学生も同乗できるということであった。

#### 《教員宿舎候補施設の見学》

教員の宿舎として想定される **Nursing Faculty of Chiang Mai University** から徒歩圏内にある **University Academic service center** を訪れた。外国からの学生や教員が宿泊する施設であり、部屋にはトイレとシャワーの完備された設備の整った宿泊施設であった。インターネット回線は月に決められた料金を支払えば使用できるということであった。大学まで徒歩 15 分という立地である。もう一つの教員宿舎候補である民間のアpartメントも見学した。一部屋 7000 バーツ/月とのことであり、病院まで徒歩 5 分という好立地であった。今後どちらにするか検討していきたい。

以上により、平成 25 年度より計画されている、統合看護実習（国際）を行うための情報収集とし、実習準備を備えることとしている。